

乳幼児の応急救護学ぶ

たかおか
こども園

職員対象に講習会

富士市厚原のたかおかこども園(渡邊宏行理事長)で20日、職員22人を対象とした応急救護講習会が開かれた。消防本部鷹岡分署の救急隊員が成人、小児、幼児の各対処法を指導し、万が一の場合への備えを伝えた。

新型コロナウイルス対策として2グループに分かれて実施。人工呼吸については説明のみとしたが、タミーナ形での実践を交えながら、年齢に合わせた胸骨圧迫やAEDの使い方などを説明した。倒れている人を発見

した際の対応としては119番通報をした上で▽傷病者の意識と呼吸の確認▽周囲の人に助けを求める▽AEDを持ってきてもらうの3点を挙げた。新型コロナウイルスが流行する現在は、傷病者が感染者であるこ

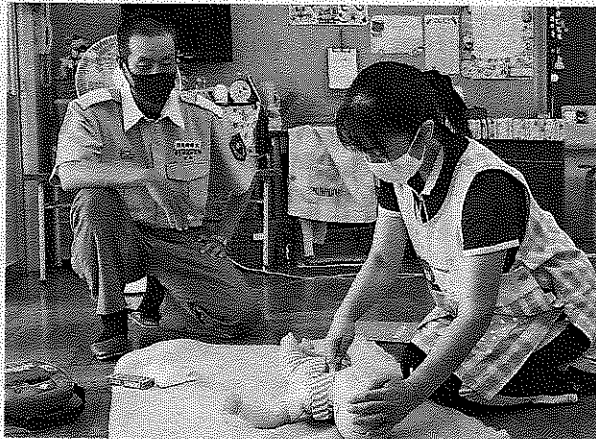
とを前提とした対応が求められ、呼吸を確認する際は口元に顔を近づけず、胸の上下動での確認が必要だとした。幼児への対応では、胸に手を置くなどして呼吸を確認し、反応がない場合には胸骨圧迫に移行。指をそろえて人差し指を乳頭辺りに置き、胸の中央に移動させたときに中指と薬指がある位置を、中指と薬指で体の3分の1

で、垂直に圧迫するよう呼び掛けた。このほか幼児の気道を確保する際には首の付け根にタオルや枕を置くこと、胸骨圧迫では傷病者の口にガーゼやタオルなどを置いてウイルスの飛散を防止することなどの注意点も伝えた。

AEDの使い方では、電気ショックを与えるパッドは大人用で大きい

ため、幼児の場合は胸と背中、左右の脇腹などに貼り付ける方法を紹介。救急隊の到着までは傷病者の心臓が動くまで、胸骨圧迫と人工呼吸、2分ごとのAEDによる解析を続けるよう求めた。隊員は「子供の場合は体格に合わせて胸骨圧迫の方法を変えてほしい」「判断に困った

ら悪い場合を想定した動きをしてほしい」などとアドバイスした。渡邊理事長によると、同園では職員の復習機会として毎年この時期に講習会を開いているといい、「夏は子供たちが活発に動く時期。万一に備えて経験を積み、子供たちの安心と安全につなげていきたい」と話した。



幼児への胸骨圧迫を実践した



小児へのAEDの使い方を説明